

国際石油開発帝石ホールディングス株式会社

2007年 3月期

中間決算説明会

2006年11月16日

本日の議題

1. 2007年3月期 中間決算説明

取締役 藤井睦久

2. 事業活動の報告

代表取締役社長 黒田直樹

代表取締役 梶岡雅俊

注意事項

当プレゼンテーションは、当社の計画と見通しを反映した、将来予想に関する記述に該当する情報を含んでおります。かかる将来予想に関する情報は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた当社の仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性およびその他の要因が内在しております。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する情報に明示的または黙示的に示される当社の将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらす可能性があります。かかるリスク、不確実性およびその他の要因には下記のものが含まれますが、これらに限られるものではありません。

- 原油および天然ガスの価格変動及び需要の変化
- 為替レートの変動
- 探鉱・開発・生産に関連するコストまたはその他の支出の変化

当プレゼンテーションに掲載される情報(将来予想に関する情報を含む)を、その掲載日後において、更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

連結子会社および持分法適用関連会社

連結子会社 57社

主要な連結子会社名	国(地域)名	出資比率	ステージ
国際石油開発	インドネシア	100%	生産中
帝国石油	日本	100%	生産中
ナトゥナ石油	インドネシア	100%	生産中
サウル石油	チモール海・共同開発地域	100%	生産中
インペックス西豪州ブラウズ石油	オーストラリア	100%	開発検討中
ジャパン石油開発	アラブ首長国連邦	100%	生産中
帝石コンゴ石油	コンゴ	100%	生産中
インペックス南西カスピ海石油	アゼルバイジャン	51%	生産中
インペックス北カスピ海石油	カザフスタン	45%	開発中

持分法適用関連会社 13社

主要な連結子会社名	国(地域)名	出資比率	ステージ
MI Berau B.V.	インドネシア	44%	開発中
アンゴラ石油	アンゴラ	19.6%	生産中

2007年3月期 中間決算ハイライト

売上高	(億円)	5,008
営業利益	(億円)	2,984
経常利益	(億円)	2,940
中間純利益	(億円)	646
1株当たり中間純利益	(円)	27,647.74

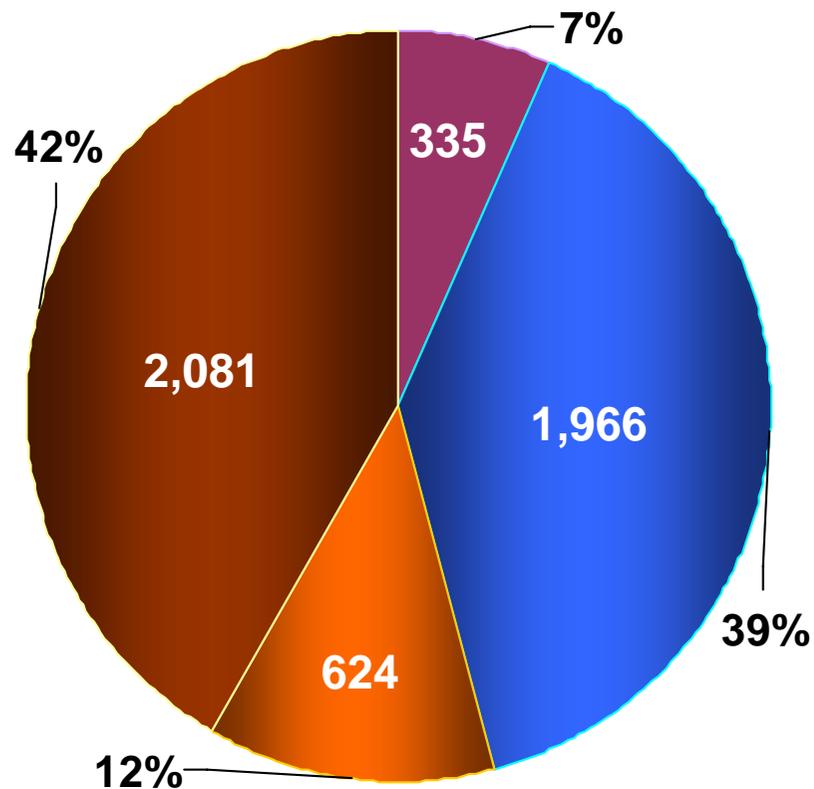
期中平均株式数(連結)2007年3月期中間 2,339,237 株

総資産	(億円)	15,309
1株当たり純資産	(円)	383,912.77

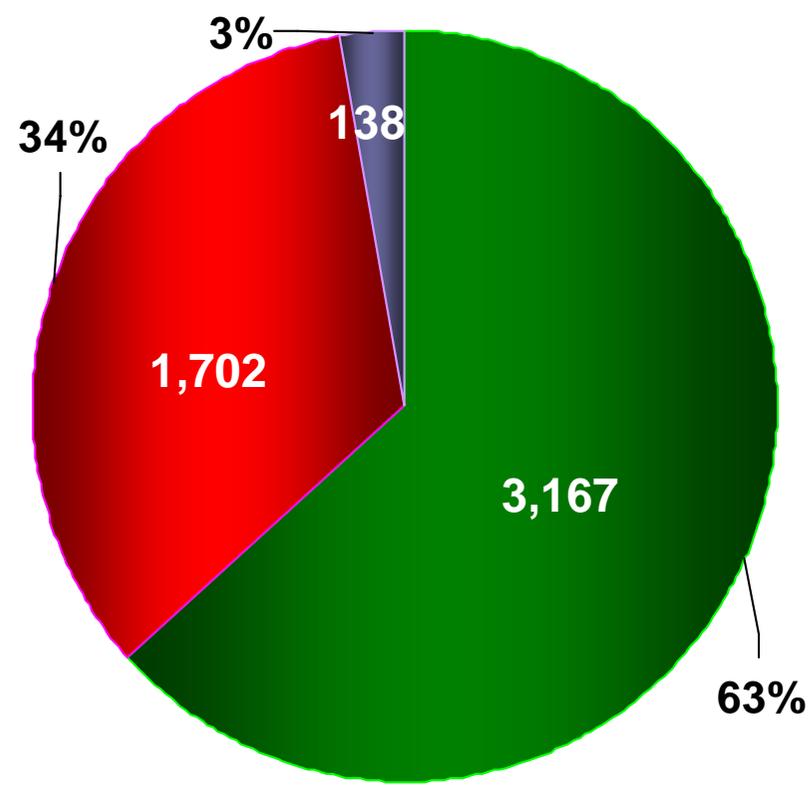
期末発行済株式数(連結)2007年3月期中間 2,346,637株

売上高(地域別、製品別)

地域別 (億円)



製品別 (億円)



■ 日本 ■ アジア・オセアニア ■ NIS諸国 ■ 中東・アフリカ ■ 原油 ■ 天然ガス ■ 石油製品他

	海外原油	海外天然ガス	国内天然ガス
販売量	41,016千bbl	159,931百万cf	530百万m ³
平均販売単価	\$66.56/bbl	\$7.98/千cf	¥34.48/m ³

国際石油開発帝石HD 損益計算書

(億円)

07年3月期

中間(4月～9月)

売上高	5,008	国際石油開発(連結) : 4,577 帝国石油(連結) : 534 石油製品仕入販売取引 相殺 : $\Delta 103$ <hr/> 計 5,008
売上原価	1,703	
探鉱費	93	
販売費及び一般管理費	226	
営業利益	2,984	国際石油開発(連結) : 2,857 帝国石油(連結) : 136 のれん償却額 : $\Delta 35$ <hr/> その他共計 2,940
営業外収益	118	
営業外費用	163	
経常利益	2,940	
法人税等及び法人税等調整額	2,235	国際石油開発(連結) : 651 帝国石油(連結) : 48 のれん償却額 : $\Delta 35$ <hr/> その他共計 646
少数株主利益	58	
中間純利益	646	

国際石油開発 原油売上高

	06年3月期中間	07年3月期中間	増減	増減率
原油売上高* (億円)	1,965	3,069	1,103	56.2%

原油販売量 (千bbl)	33,156	39,617	6,461	19.5%
平均単価 (\$/bbl)	54.00	66.83	12.83	23.8%
平均為替 (¥/\$)	109.59	115.45	5.86	5.4%

*インドネシア国内供給義務を含む。

主にACG油田(インペックス南西カスピ海石油)およびADMA鉦区(ジャパン石油開発)の生産量増加により前期比19.5%増加。

帝国石油 原油売上高

	05年4月～9月*	07年3月期中間	増減	増減率
原油売上高 (億円)	98	98	-	-

海外原油販売量 (千bbl)	2,024	1,399	△625	△30.9%
平均単価 (\$/bbl)	43.80	58.94	15.14	34.6%
平均為替 (¥/\$)	109.35	115.40	6.05	5.5%

国内原油販売量 (千kl)	4.3	5.9	1.6	38.4%
平均単価 (¥/kl)	32,404	48,420	16,016	49.4%

ベネズエラ事業 : 売上計上なし/契約改定に伴う新規JV設立等の手続き中(原油JVは持分法適用予定)

*当該数値は2005年第3四半期(1～9月)から2005年第1四半期(1～3月)を差し引いた参考数値である。

国際石油開発 天然ガス売上高

	06年3月期中間	07年3月期中間	増減	増減率
天然ガス売上高 *(億円)	1,140	1,508	367	32.2%

天然ガス販売量 (百万cf)	144,654	159,931	15,277	10.6%
平均単価 (\$/千cf)	6.81	7.98	1.17	17.2%
平均為替 (¥/\$)	109.69	115.43	5.74	5.2%

*LPGを含む。

マハカム沖鉦区よりボンタンLNGプラント向けの原料ガス供給量の増加およびバユ・ウンダンLNGプロジェクト向けのガス供給開始(サウル石油)により、前期比10.6%増加。

帝国石油 天然ガス売上高

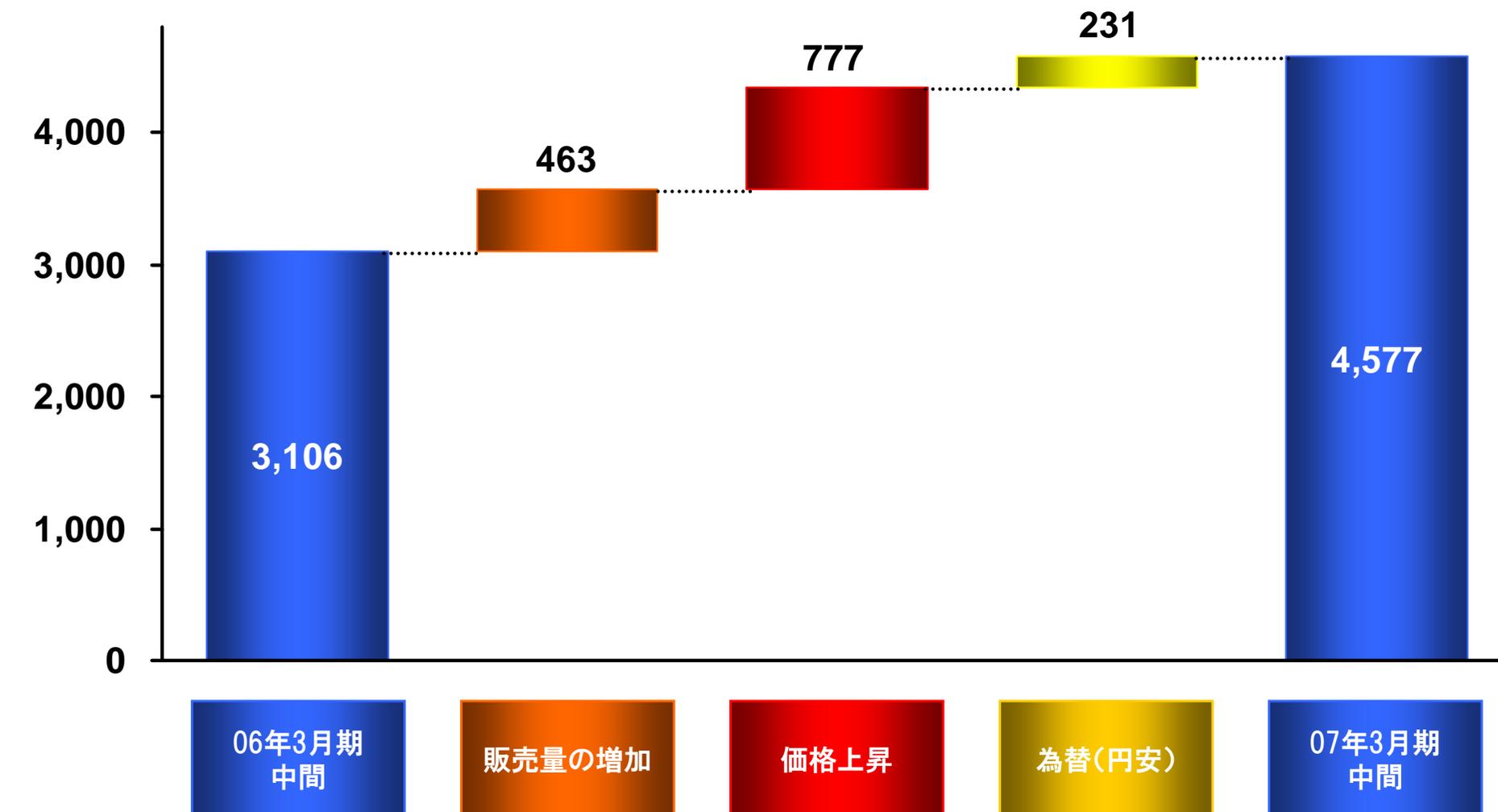
	05年4月～9月*	07年3月期中間	増減	増減率
天然ガス売上高(億円) (LPGを含む)	169	196	27	16.0%
海外ガス販売量(百万cf)	12,831	-	△12,831	-
海外ガス平均価格(\$/千cf)	0.73	-	-	-
海外ガス売上為替(¥/\$)	109.33	-	-	-
国内ガス販売量(百万Nm ³)	427	530	103	24.1%
国内ガス平均価格(¥/Nm ³)	34.81	34.48	△0.33	△0.9%
国内LPG販売量(千t)	10.6	9.1	△1.5	△14.2%
国内LPG平均価格(¥/kg)	94.85	146.82	51.97	54.8%

- ・ベネズエラ事業:売上計上なし/契約改定に伴う新規JV設立等の手続き中
- ・国内天然ガス事業:大口工業用を中心に当初想定を上回る拡販

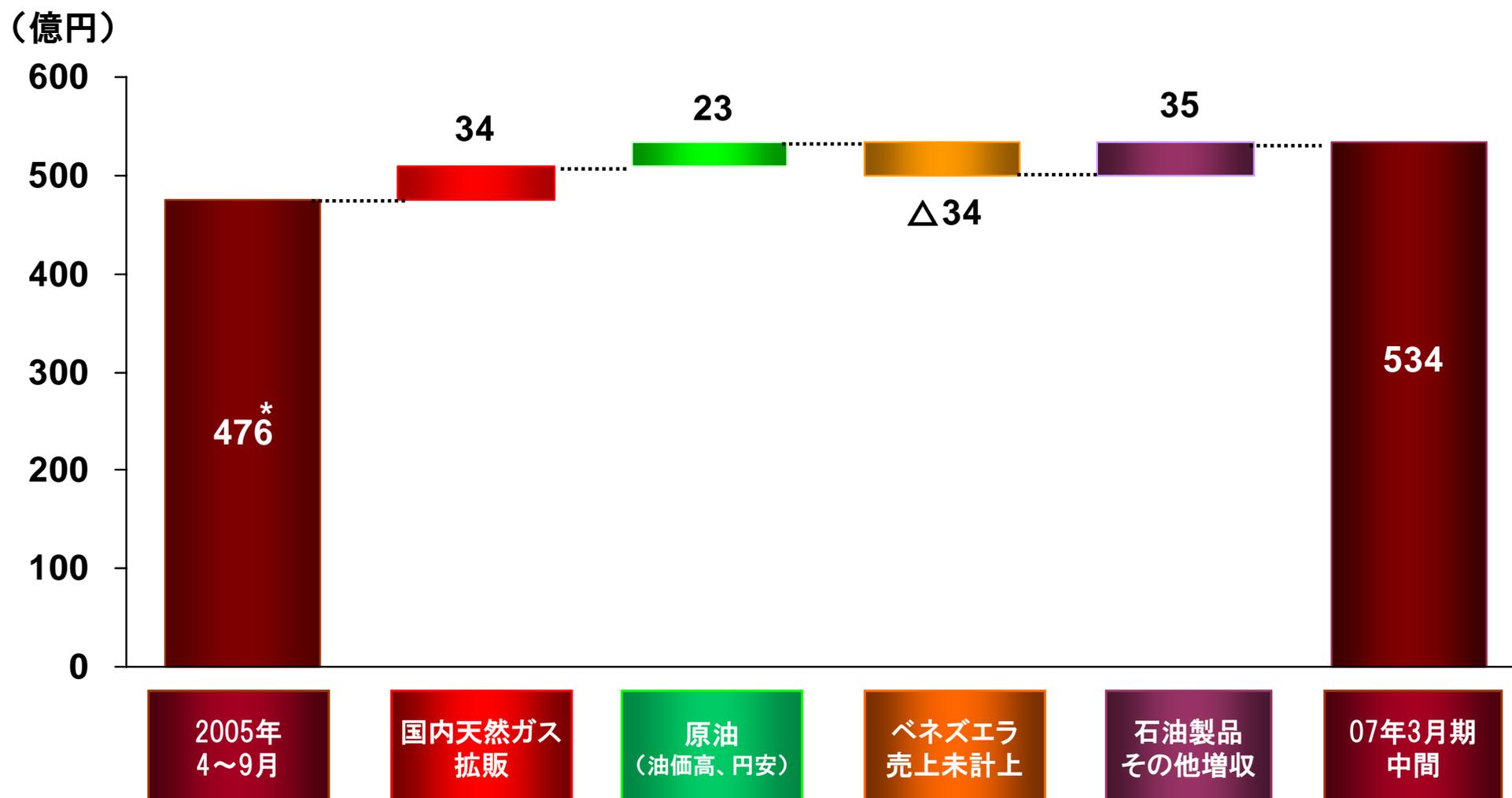
*当該数値は2005年第3四半期(1～9月)から2005年第1四半期(1～3月)を差し引いた参考数値である。

国際石油開発 売上高 増収要因分析

(億円)



帝国石油 売上高 増収要因分析



*当該金額は2005年第3四半期(1～9月)から2005年第1四半期(1～3月)を差し引いた参考数値である。

国際石油開発帝石HD 貸借対照表

(億円)	07年3月期 中間期末
流動資産	4,377
有形固定資産	2,141
無形固定資産	2,716
生産物回収勘定	3,084
その他	3,465
生産物回収勘定引当金	△476
資産合計	15,309
流動負債	2,594
固定負債	3,235
純資産	9,479
(うち少数株主持分	470)
負債・純資産合計	15,309

国際石油開発帝石HD

キャッシュフロー

(億円)	07年3月期 中間(4月～9月)
税金等調整前中間純利益	2,940
減価償却費	125
生産物回収勘定(資本支出)の回収額	558
生産物回収勘定(非資本支出)の増加額	△136
法人税等の支払額	△2,068
その他	94
営業活動によるキャッシュフロー	1,514
有形固定資産の取得による支出	△175
投資有価証券の取得による支出	△472
生産物回収勘定(資本支出)の支出	△556
その他	431
投資活動によるキャッシュフロー	△772
財務活動によるキャッシュフロー	88
現金及び現金同等物の期末残高	2,353

国際石油開発帝石HD

2007年3月期 業績予想

前提(2006年11月15日)	1Q実績	2Q実績	下期*
Brent 油価(\$/bbl)	70.4	70.6	57.5
為替レート(円/US\$)	114.52	115.45	110.0

*下期前提条件に変更なし

連結	前回予想 2006年8月9日	今回予想 2006年11月15日	増減	増減率
売上高 (億円)	9,180	9,510	330	3.6%
営業利益 (億円)	5,260	5,440	180	3.4%
経常利益 (億円)	5,210	5,410	200	3.8%
当期純利益 (億円)	1,180	1,240	60	5.1%

個別(参考)

営業収益 (億円)	300	325	25	8.3%
経常利益 (億円)	275	300	25	9.1%
当期純利益 (億円)	275	300	25	9.1%

1株あたりの配当金 (円)	6,250	6,250	—	—
---------------	-------	-------	---	---

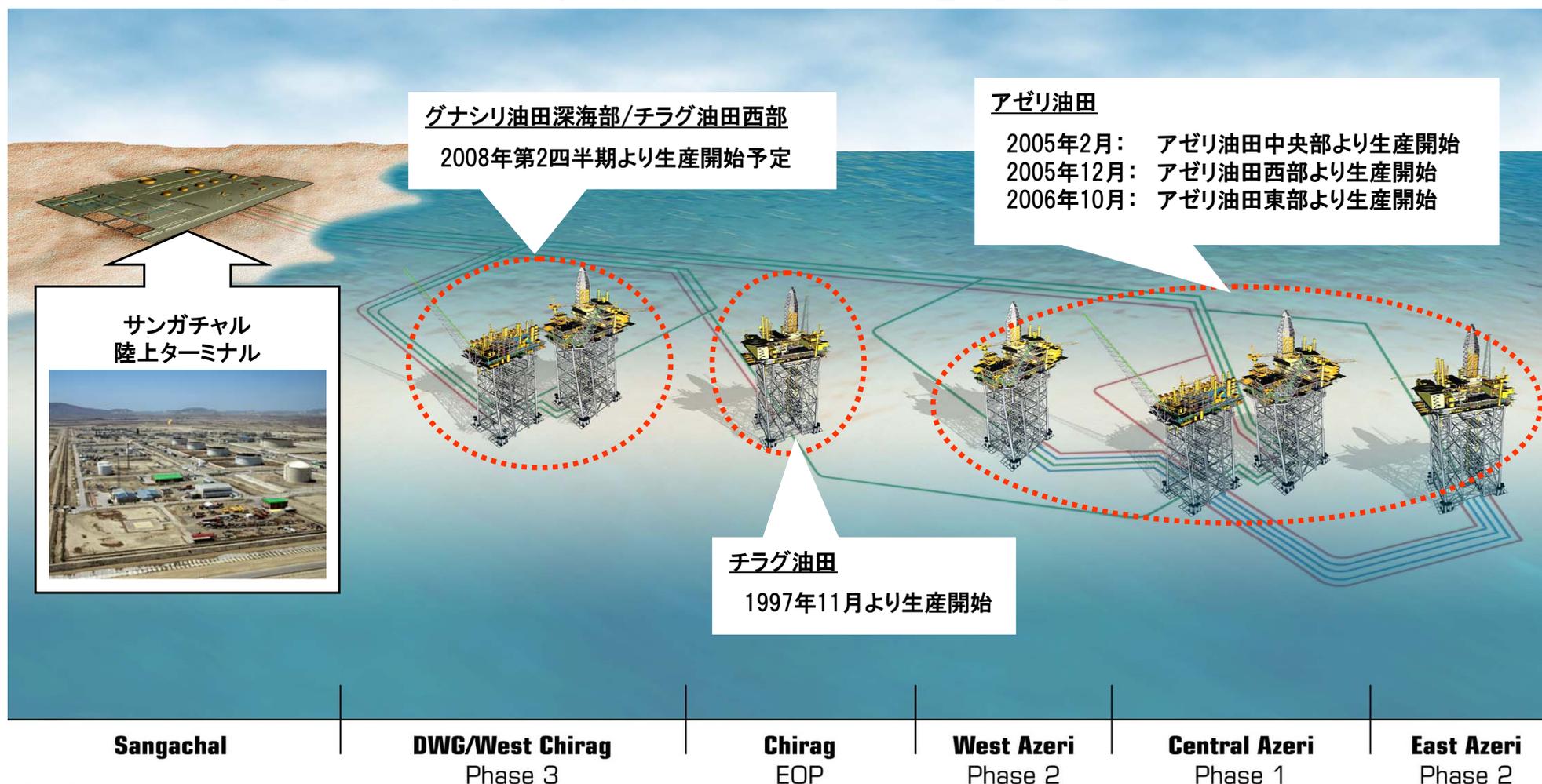
事業活動報告

経営統合の進捗 ―統合効果拡大に向けて―

- 2008年10月を目途として、国際石油開発帝石ホールディングス、国際石油開発及び帝国石油の3社を合併し、事業持株会社へ移行
- 2008年4月適用開始予定の日本版SOX法に対応した内部統制構築、事業持株会社の会計、人事などの新情報システムの構築、本年10月会社情報開示規程制定による情報開示体制強化など、事業持株会社の基盤整備を推進
- 両社の強みを生かし、スピード感と効率を重視した新組織の構築
- 従業員の融和、魅力ある企業風土の形成を目指し、従業員の意識調査を実施、人事制度の統合作業を推進
- 先行的取り組みとして、経営効率を重視した投資・経営戦略の統一的な意思決定、イクシスLNG開発プロジェクトなどのオペレーター事業推進のため事業子会社間で積極的に人材交流、新規鉱区権益取得に向け事業子会社間で共同入札に参加、など可能な分野からプロアクティブに統合効果を拡大
- 2008年を目途として、グループの主要事業会社のオフィスを港区赤坂(赤坂Bizタワー(仮称))に集約させ、事業持株会社の本社を移転

ACG油田 アゼルバイジャン領 カスピ海

- 当社権益比率: 10% (オペレーター:BP)
- PS契約: 2024年まで
- 生産量: 日量約53万2千バレル(全鉱区ベース 2006年9月平均)
- 第3フェーズ開発中 - 2009年までに鉱区全体で日量100万バレルに達する予定



アザデガン油田 イラン陸上



- サービス契約(バイバック契約)
- 油田開発プロジェクトは2段階*
 - 開発第1段階として2009～10年に日量15万バレルに達する計画
 - 開発第2段階へ移行した場合、2013～14年に日量26万バレルに達する見込み
- イラン側と以下の推進体制の枠組みについて基本合意し、詳細に関して協議を継続中
 - 当社子会社のアザデガン石油開発は、当初の参加比率75%を10%に引き下げ、NICO(イラン国営石油会社の子会社)とともにサービス契約に基づくコントラクターとして引き続きアザデガン油田の開発に貢献する
 - 参加比率の変更に伴い、操業責任者(オペレーター)をNICOに移管する

注: * 全鉱区ベース、生産量達成時期は2006年10月に開発工事が開始されるとの前提。

WA-285-P鉦区(イクシス) 西オーストラリア沖合



- 当社権益比率: 100.0%*
- オペレーター: 当社
- 利権契約:
 - 探鉦期間 2009年9月まで
 - 生産期間 生産ライセンス付与から21年(延長可)
- 2000年より計6坑井を掘削し大規模天然ガス・コンデンセート田を確認、イクシス構造と命名
- 2006年5月、豪州連邦政府及び西豪州政府に対し、プロジェクトの環境影響審査手続きを開始
- 2006年8月、長期にわたり豪州経済発展に貢献するプロジェクトとして、豪州連邦政府が主要促進プロジェクトに認定
- 2012年のLNG生産開始を目標に開発検討作業を実施中。初期生産段階での生産・販売量はLNGを年間約600万トン、LPGおよびコンデンセートを日産約10万バーレルを予定

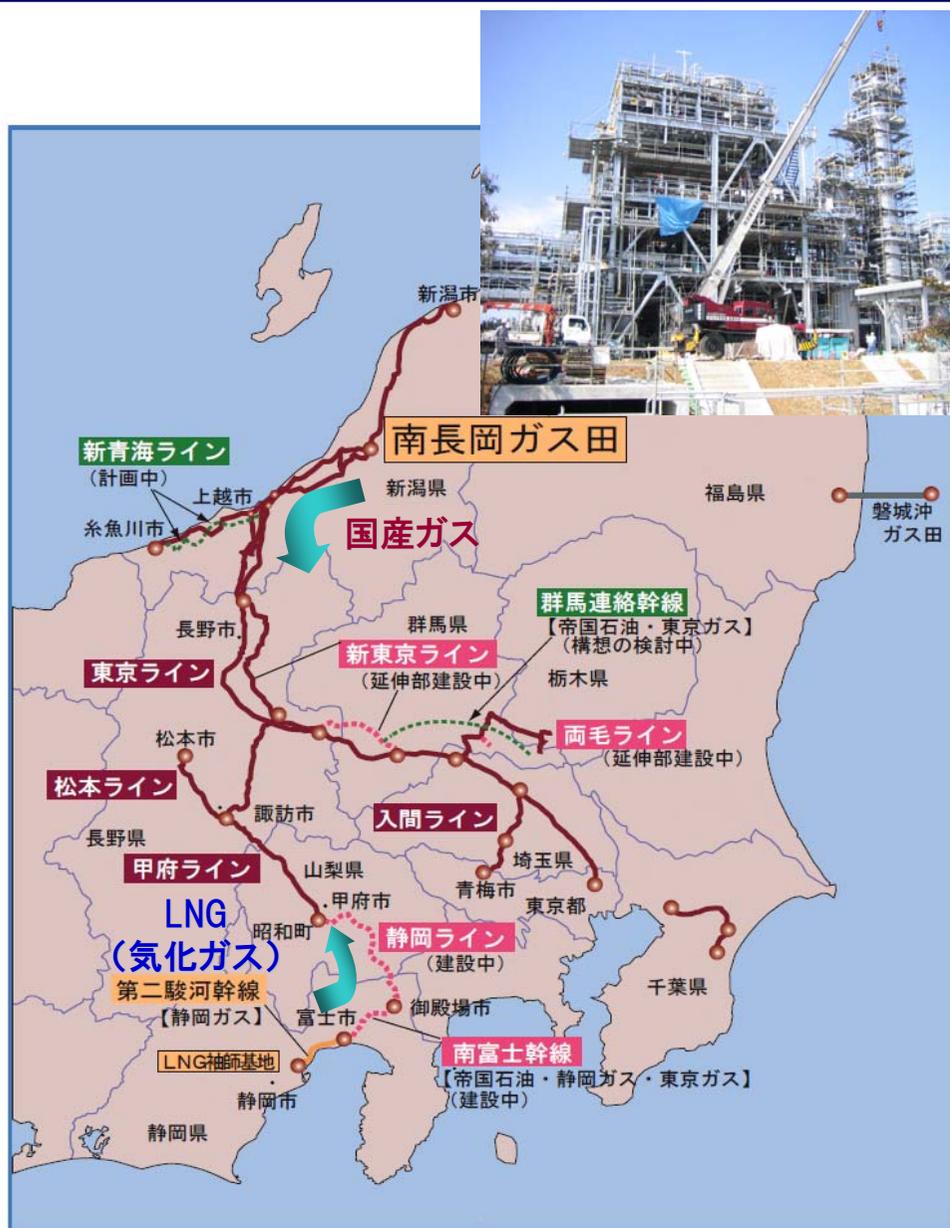
* 豪州政府の承認を条件に、Total社へ24%の権益を譲渡予定。

マセラ鉱区(アバディ) インドネシア チモール海上



- 当社権益比率: 100.0%
- オペレーター: 当社
- PS契約:
 - 探鉱期間10年間(2008年まで)
 - 開発・生産期間30年間(2028年まで)
- 2000年に試掘井アバディ1号にて天然ガスを発見
- 2002年に評価井2坑を掘削、アバディ構造が大規模ガス田であることを確認
- 2007年1Qに評価井4坑の掘削を開始予定
- 2008年に可採埋蔵量の第三者査定を取得予定

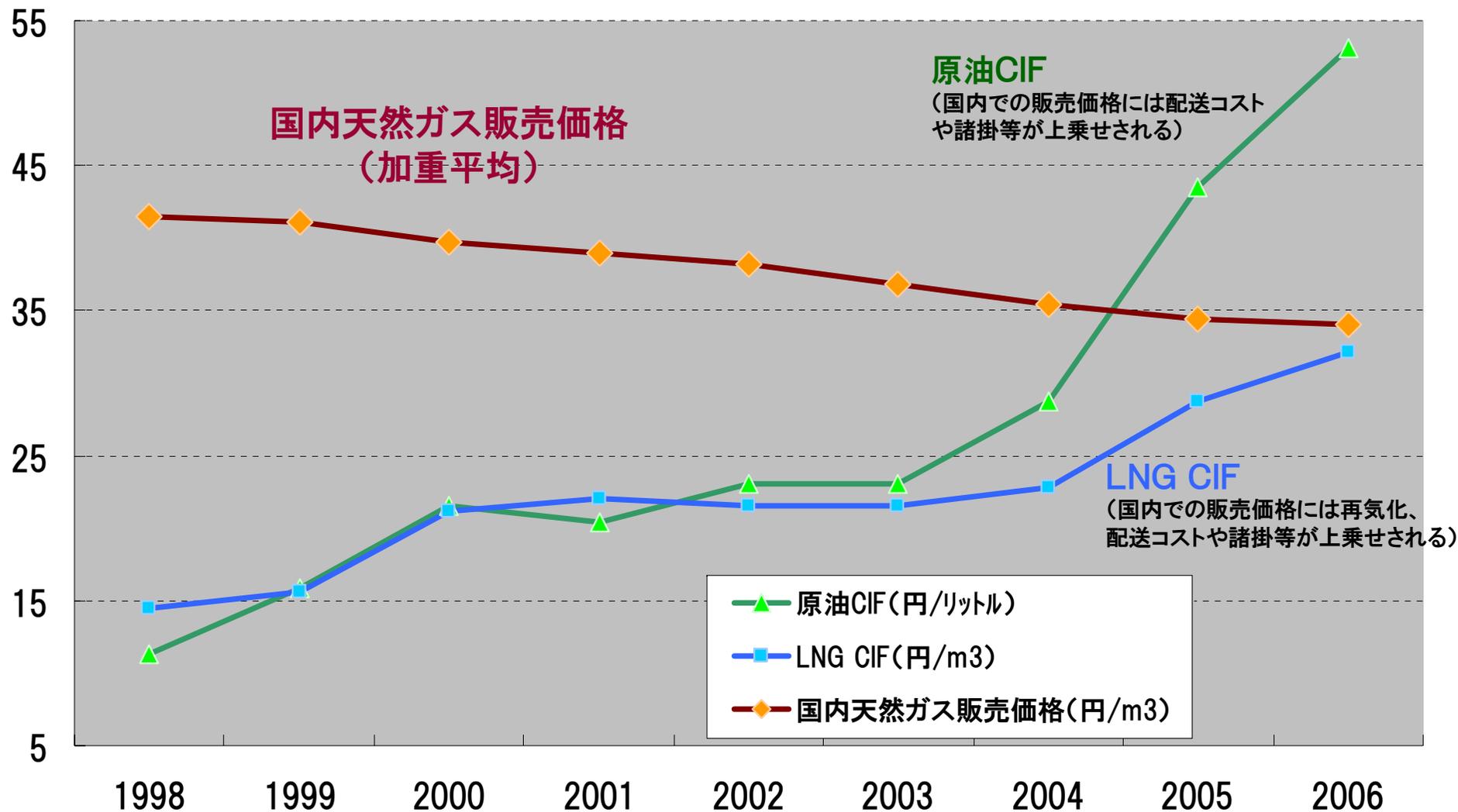
国内天然ガス事業



- インフラ整備状況
 - 南長岡ガス田に新系列増設が完成
(天然ガス処理能力を約1.5倍へ)
 - 静岡ライン、南富士幹線が完成
(静岡ガス㈱へガス販売:1~2億m³/年を上乗せ)
- 天然ガス拡販状況
 - 大口工業用を中心に想定を大幅に上回る拡販
 - 前年比約25%増、年間12億m³の早期達成へ
- さらなるインフラ増強へ
 - 関原地下貯蔵システムの増強
(天然ガス排出能力を1.5倍へ)
 - 群馬連絡幹線構想
 - 新青海ライン
- 埋蔵量の拡大に向けて
 - MHF技術により北部開発を促進
(4坑井に適用予定:10%以上の埋蔵量追加期待)
- 発電事業(2007年運転開始)

国内パイプラインネットワーク

国内天然ガス価格推移



※出所:「財務省貿易統計」

※ 原油、LNG価格は熱量換算 (m³@41.86MJ)
 ※ 2006年の原油、LNG価格は4-8月実績の平均
 ※ 2006年の国内天然ガス販売価格は見通し